

最期の選択～その一例

高齢の患者さんが増え、慢性の病気で療養しているうちに少しずつ身体が衰え、最期を迎える方が多くなってきているように思います。

そんな中で、とても印象深く刻まれているのはTさん。ご本人は日ごろから、体調が悪くなくても絶対に病院には行きたくない、延命治療はしないでほしいと言っていました。

あるとき痰が多くなり、呼吸苦になりました。最期が近づいているのだと、ずっと看ていた娘さんにもわかりました。

ご本人の意識が朦朧とし、苦しそうにしていた

ので在宅酸素の導入を提案しましたが、娘さんと相談して見送りました。酸素吸入によって確実に呼吸苦が解消される保証はありませんでしたし、「延命につながる可能性もあるのなら」と、母の意思を継いだ娘さんの強い覚悟に基づいた決断でした。



それから2～3日して、Tさんは穏やかに息を引き取られました。娘さんにとっても、そしておそらくご本人にとっても、満足のいく最期だったのではないかと思います。

医師としては選択肢があれば提示します。最期の選択について、ご本人の意思を聞いていたとしても、迷うこともあるのですが、Tさんの娘さんのしっかりとした死生観に、敬意の念を抱きました。

(松井・医師)

● 掲示板 ●

● 皆さまからのお便りをお待ちしています。

「三つ葉しんぶん」では、読者の皆さんからのお便りをお待ちしています。ご質問やご意見、医師やスタッフへのメッセージ、他の患者さんやご家族に聞いてみたいこと、日々の想い、俳句・川柳、イラスト、写真などどんなことでも結構です。

同封のはがきをご利用いただくか、電子メールでお寄せください。

(宛先：tsubuyaki@mitsuba-clinic.jp)



三つ葉のスタッフ紹介

はじめまして、診療サポートの伊藤です。三つ葉に入職してようやく半年が経ちました。私は患者さんやご家族が安心して三つ葉の診療を受けられ、そして医師が最高の診療を提供できるようサポートをしています。スケジュール調整や必要な物品の準備などさまざまですが、常に気を付けているのは「すぐに対応する」ことです。



現在は主に施設のスケジュール調整やお届けする物品の準備をしています。直接患者さんにお会いすることは少なくなりましたが、準備する物品の向こう側にいらっしゃる患者さんのことをいつも考えて、より良い医療サービスをお届けできるよう頑張りたいです。

医療法人 三つ葉

三つ葉在宅クリニック

〒466-0015 名古屋市昭和区御器所通 3-12

御器所ステーションビル 3F

TEL 052-858-3281 FAX 052-858-3282

URL <http://www.mitsuba-clinic.jp>

三つ葉しんぶん係メールアドレス

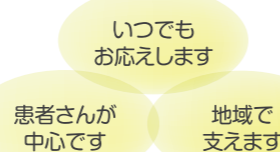
tsubuyaki@mitsuba-clinic.jp



■ 私たちの理念

最高の在宅サービスを提供し
安心して暮らせる社会を創造する

■ 安心を支えるために…



三つ葉在宅クリニック



三つ葉在宅クリニック

三つ葉しんぶん 34



2014年5月号

「三つ葉しんぶん」は患者さん・ご家族と、三つ葉医師・スタッフの双方向通信です。

今月の一枚～自分でできることは自分で。

99歳の美馬貞江さんはおひとり暮らし。お付き合いが長く、信頼のおけるケアマネジャーさんやヘルパーさん、ご近所さんの見守り・支えもあり、去年の暮れに愛犬のりんごちゃんが亡くなった哀しみを乗り越えて、お元気に過ごしていらっしゃいます。「ゆっくりはよ（早く）やるでね」とマイペースで、できるだけ自分のことは自分でやりたいと、食事も自分でつくります。

その人生を振り返れば波乱万丈。親が勧めた10代での結婚を嫌って家出、北海道から親類を頼り、ひとり名古屋へやってきました。4年ほど後「いい～ひと♡」に巡り合って結婚。「二人が大好きなもので商売を！」とお肉屋さんを始め、ご主人は精肉、貞江さんは加工品でなかなか繁盛したそうです。戦中・戦後のお肉配給時代を乗り切って「これから」というときにご主人が先立たれました。

「自分の人生は85歳までだと思っていた。こんなに長生きして、たくさん苦労したけれど、本当に満足している」と話します。



声

患者さんにご家族からのお便り



俳句コーナー

逝きし子のアルバム重し 春の雪
地で遊び 地に還る春 子の生命
地を割って咲く クロッカス 空見上げ 〈幸〉

万愚節 医師の処方薬のむ
雲に鳥 余生これより最終章
光陰のゆっくり流れ 花筏 (はないかだ)
なに着ても齡かくせず含羞草 (おじぎそう)
うかれ猫 云はでよきことまた云って 〈成〉



幸さんは、息子さんを亡くされた哀しみを歌にしてくださいました。地を割って咲く春の花のように、上を向いて生きていくことができますように。成さん、いつもありがとうございます。読者の皆さんはどう感じられるでしょうか。



今月の一枚を見て

4月号の「穏やかな光の中で」を拝見し、驚き、すばらしい描写で心が動かされました。母は何を伝えたいでしょうか？ 娘はぐーと悲しみを抑え……。私は何回も、何回も、この写真を見つめました。

在宅と病院の連携のしくみ

ご自宅で療養する患者さんには、三つ葉在宅クリニックからの訪問診療で定期的な管理と医療処置、血液や尿などの検体検査、超音波や心電図検査、お薬の処方などを行い、また緊急往診である程度までの救急医療に対応しています。それ以上の専門的な治療や検査が必要なときに、病院に紹介します。

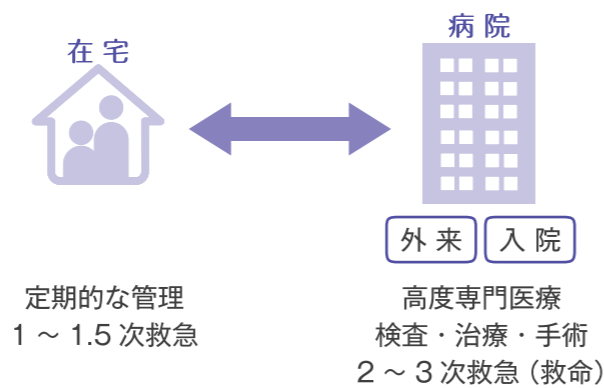
今月は在宅と病院の関係について紹介したいと思います。

病院の役割って何？

病院には「入院」と「外来」があり、「検査」「治療」「リハビリ」「療養」といった機能があります。

在宅では主に生活の維持・支援のための医療が提供されますが、病院では基本的に病気を「治す」ための医療で、手術や放射線治療、化学療法など専門的なものが含まれます。「検査」は在宅でできるものよりも精密で専門的です。

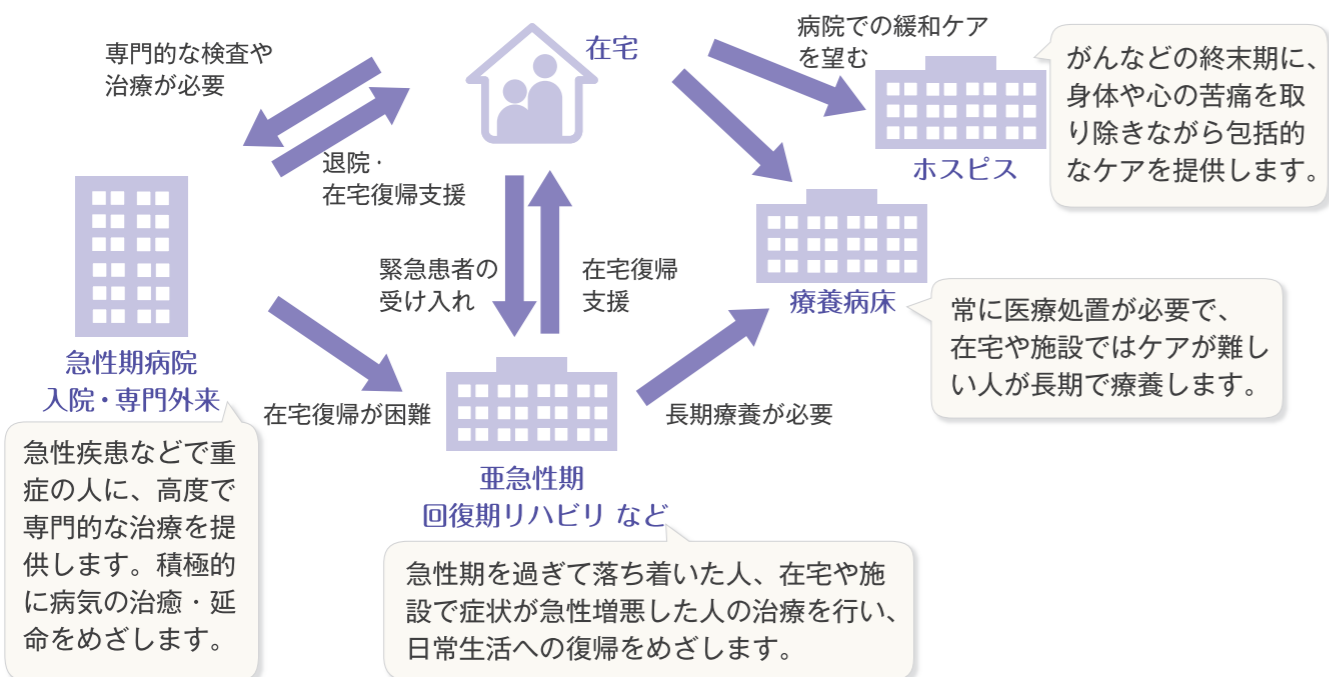
「療養」は病院（入院）から在宅へと徐々に移行しています。



在宅 ⇄ 入院のおおまかなしくみ

病院に長く入院することは少なくなりました。急性の重症疾患や、慢性の疾患が急に悪化した場合に「急性期病院」で治療し、その後はなるべく在宅に戻って普通に生活を続けられるようにするのが、現在の大きな流れです。

但し、すぐに在宅に復帰するのが難しい場合があります。そのときには一般病院や、日常生活への復帰をめざしてリハビリを行う「回復期リハビリテーション病院」などを介して、スムーズに地域に帰る支援が行われます。

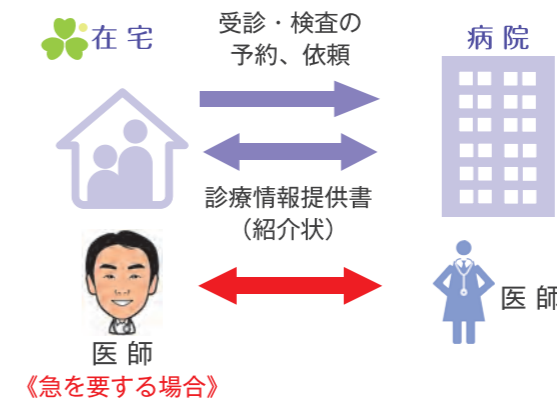


三つ葉と病院は、どのように連携しているのですか？

三つ葉では、患者さんが病院での加療を望まれる場合や、病院で詳しい検査や治療をしたほうが、今後の状態が良くなるだろうと考えられるときに、検査や外来受診の予約、救急搬送の受け入れ依頼をします。検査については、医師会の検査センターを利用することもあります。

その際、病院の医師に対し「診療情報提供書」(紹介状)を発行し、在宅での病状を伝えます。

病院での検査や治療が済んだときや、退院してこられるときには、同じように病院の医師から三つ葉の医師宛に診療情報が提供されます。



⚡ かかりつけ医からの紹介・予約制を採用している病院では、外来受診の際に紹介状がないと「選定療養費」として1080～5400円ほど余分にかかります。また一部の病院では、紹介状がないと受診できなくなりました。病院受診の際には、三つ葉の医師から紹介状を発行します。

三つ葉の窓口

三つ葉には社会福祉士や精神保健福祉士の資格をもった医療ソーシャルワーカー(MSW)がいます。病院との連携窓口として、病院への受診予約、一時入院された患者さんの状態把握をしたり、在宅復帰の際のいろいろな手配・ご相談等もお受けしています。何かあれば、まずはご連絡ください。

病院の窓口

急性期病院には地域医療との橋渡しをする部署があります。だいたい「地域医療連携室」や「医療相談室」と呼ばれています。そこでは、病院側の看護師や医療ソーシャルワーカー(MSW)が、病院から在宅への移行に際しての支援をしています。三つ葉のソーシャルワーカーはこうした部署と密に連絡を取り、患者さんが病院と在宅の間をスムーズに移行できるように協力しています。

● 診療ファイルもお持ちください！

病院受診するときには、毎回の訪問時にお渡ししている診療レポートを綴じた「三つ葉診療ファイル」を持っていただくと、病院の先生にも在宅での様子が伝わり、よりスムーズに受診できるはずですよ。

● 退院前カンファレンス

初めて病院から在宅医療に移行するときや、在宅から一度入院して大きく状態が変わった場合に、退院前に開かれる会議です。病院側のスタッフ、在宅ケアチーム、患者さん・ご家族が集まり、これまでの経過や退院後のケアについて情報共有を行います。

医師会の検査センター

三つ葉ではできない検査をするとき、よく利用する医療機関として「名古屋市医師会健診センター」(東区)があります。CTやMRIなど病院同様の検査設備を揃え、

地域の診療を支援してくれています。訪問レントゲン検査は、三つ葉から医師会に依頼し、患者さん宅に来てもらいます。